

### 【議会報告会】

○一般コミュニティ助成事業について、公平性担保のため、優先順位の基準を見直すということだが、公平性の考え方は。

⇒議員 公平性の考え方は委員の中でも分かれている。プレゼンテーション形式で審査すべきという意見や、採用された地区には次年度の申請を辞退してもらい、地区間の公平性を保つべきとの意見も出た。

理事者からは、地区内で複数の申請がある場合は、まずその中で順位を付けてもらうことや、毎年申請されるものについては優先して県へ申請していくという趣旨の案が示されたが、もう少し精査が必要ということで、様々な意見を出し、理事者に持ち帰ってもらっている。優先順位の基準については、改めて提示される。

○今年度に公民館の建設を予定しているが、一般コミュニティ助成事業に該当するか。

⇒議員 公民館の建設に関する事業は、一般コミュニティ助成事業ではなく、コミュニティセンター助成事業に該当する。今年度の同事業に対する応募は 1 件あったが、不採択となっており、応募すれば必ず採択されるものではないことをご理解願いたい。

### 【シティ・ミーティング】

《テーマ：マイナンバーカードの活用について》

#### Aグループにおいて出された主な意見

○今の段階でマイナンバーカードを持つことにメリットを感じない。

○マイナンバーカードが車のキーになったり、保険証、免許証、身分証明として使えるようになれば普及するのではないか。

○マイナンバーカードを使って利用できる制度を増やすと、カードを紛失した時のリスクが大きいため、証明書発行程度に留めておいた方がよいのでは。

○マイナンバーカードのセキュリティを高めるなど、カードを持つことに対するの安心感を高めてほしい。

○証明書のコンビニ交付については、鈴鹿市ですで行われており四日市市は対応が遅い。

○選挙の投票確認にマイナンバーカードを使ってはどうか。

## Bグループにおいて出された主な意見

- 確定申告以外ではマイナンバーカードを使っておらず、あまり必要性を感じない。
- マイナンバーカードの紛失が心配。
- マイナンバー通知書カードで済むため、マイナンバーカードを持つ必要性を感じない。
- マイナンバーカードの紛失が心配というが、免許証等でも同じことなのだから、そこをクローズアップせずに安心して持ってもらえるような政策を打つべき。
- 免許証、保険証等がマイナンバーカードに一本化されれば便利である。
- 地元の活動、自治会の活動等に参加すればポイントが貯まり、何かの形で還元されればカードを持つ理由になる。
- マイナンバーカードに貯まったポイントを公共交通機関で使えるようになれば魅力的である。
- 四日市市は他市の様子を見ながら二の足を踏んでいる印象。色々な所で使えるような思い切った政策を行うべき。

## Cグループにおいて出された主な意見

- マイナンバーカードの申請手続きが煩雑である。
- 重要な情報が入りすぎており、落としたら心配。
- 議員、市職員がそもそも持っていないし、メリットが伝わってこないので、所有を義務化でもしないと普及は進まない。
- 将来的には外国人が増えてくると利用価値も高まるのでは。

### 《テーマ以外》

○農業用取水施設の補修費用については、地元で1割を負担することになっているが、大規模な修繕となると1割を負担することは厳しい。昔は単なる水田用の取水施設だったが、現在では集落内を潤す水路という環境面での機能や大雨の際の集落排水という防災面の役割も果たしていることから1割負担を軽減してほしい。

⇒議員 担当部局に確認する。

○農道の未舗装箇所や舗装部分の修繕については、土木要望の「生活に身近な道路要望」にそぐわず地元でも対応できない。農業の産地維持・発展のためにも農道の改良整備を事業化してほしい。

⇒担当部局に確認する。

○鈴鹿市の高岡団地の調整池から、河原田地区の農家管理の用水路に流れ込んでいる 600 mほどの水路がある。これについて、四日市市側の部分については誰も管理しておらず、大雨の際に上流から草や汚濁水が入ってくる。そのため、同部分の管理者を確認してもらい、しっかり管理してほしい。

⇒議員 担当部局に確認する。

○塩浜地区ではコンビナート企業の衰退により活気がなく、将来的な不安を感じる住民が多いと聞く。同地区のコンビナート地域について今後どのような施策を取っていくのか。

⇒議員 まちの賑わいと産業の関係は難しい部分がある。産業活動による公害を懸念する方々がいるのに対して、産業の衰退による活気の低下に危機感を持つ方々もいる。産業の復活による賑わいの創出なのか、産業が撤退していく中での賑わいの維持、振興なのか様々な考え方があある。賑わい創出という意味では、塩浜駅の乗降客に着目すべきだが、現状では出勤や通学での利用に留まっている。また、定住人口の促進という観点では 3.11 以降国道 23 号線以東は厳しい状況になっている。これらを踏まえ、今後どうしていくかを提案していきたい。

⇒議員 半導体やプラスチック素材などの次世代産業が成長分野だと思われる。そのため行政はトップセールスにより投資を呼び込む努力が必要であるし、既存の企業についてもその方向に舵を切ってもらうことがよいと思う。

⇒議員 コンビナート企業の遊休地の再利用については、市としても必要性を認識している。

⇒議員 新素材、水素を使った燃料電池等が四日市の工業の次の一手になる可能性がある。しかし、交通渋滞が解消されなかったり周辺の都市・商業施設が乏しいと都市間競争に負け産業を呼び込めない。どのように塩浜地域を発展させていくかについては地区計画をどのように作っていくかということが重要である。また、地元で就職、結婚してくれというように、地域内で呼びかけを行っていくことが働き手の確保、地域のまとまり創出にもつながると考える。

○内部、河原田、水沢などの四日市市南部地区は農地や水田が多く市街化調整区域となっているが、同区域に対する今後の展望は。

⇒議員 コンパクトシティを目指す中では市街化調整区域を外していくことは難しいが、条例を改正し限定的ではあるが血縁者が転用して近隣に住居を立てるということも可能になっている。

⇒議員 地区計画を作り土地利用のあり方について定めれば、別用途に使用できる可能性があるので、地区計画の作り方がポイントになる。